

地中海紀行(1) サウサンプトンからリスボンへ

2023-6-26 池田良穂

「アンセム・オブ・ザ・シーズ」の 1 週間ノルウェークルーズを終えてサウサンプトンに早朝に帰港すると、乗客の下船が始まりました。筆者は、続けて 2 週間地中海クルーズにも乗船するので、船内でシーパスカードの交換を行うだけで、一度下船する必要はありませんでした。

11 時くらいから次の乗客の乗船が始まり、一部のバーやレストランもオープンしました。そして 13 時半には客室の準備も整いました。ノルウェークルーズで使用したインサイドルームから、13 階のベランダ付きの部屋に変わり、ノルウェークルーズ時のステートルーム・アテンダント(昔はルーム・スチュワードと呼ばれていました)がスーツケースを移動してくれていて、すでに新しい部屋の中になりました。

船室は船首から 2 つ目で、予約時にはブリッジのウイングの影になって前方からくる船の視認がしにくいのではと心配したのですが、左舷の客室で空いているのはこの部屋だけだったのでしかたがありませんでした。しかし、実際に入ってみると、部屋をでるとすぐにソラリウムのウイングに通じるドアがあり、とても便利なのが分かりました。ソラリウムのジャグジーにも近く、温かいジャグジーに浸かりながらのシップウォッチングもできました。

さて、サウサンプトンの出港は 17 時の予定だったので、部屋のベランダの椅子に座って待機しましたが、17 時が過ぎても船はなかなか動きだしません。この日の朝は 4 時に起きて入港時のシップウォッチングをしていたので、ついうとうとしていると、大きな汽笛の音で目が覚めました。目の前に「クイーンメリー2」の船首があり、ゆっくりと出港していき、お互いに汽笛を鳴らしあっていました。

1 時間遅れの 18 時になって、ようやく「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は岸壁を離れて、ゆっくり回頭してからサウサンプトン港をあとにしました。それに続いてオーシャン・クルーズターミナルに停泊していた「ブリタニア」も続いて出港し、昨日の入港時と同じく、「QM2」、「アンセム」、「ブリタニア」の順での航海となりました。

ワイト島の東側を通過して、2 時間ほどかけてイギリス海峡のメイン航路に合流し、さらに左に針路を変えて南下しました。途中、仏カーフェリー「モン・サン・ミッシェル」と反航しましたが、その後は主要航路を外れたせいか、船との出会いはほとんどありませんでした。



部屋のベランダから「クイーンメリー2」が出港していくのを見えました。



オーシャン・クルーズターミナルに着岸する「ブリタニア」の前を通過して出港しました。

夕食の後、シアターで「Welcome Abord Show」を観ました。クルーズディレクターの司会で、男性歌手、コメディアン公演が 45 分ほどありました。クルーズ中のメインの出し物の短い紹介といった構成でした。ショーの中での女性クルーズディレクターの挨拶の中で、乗客は約 4600 人。イギリス人がもっとも多く 2000 人を超え、アメリカ人が 800 人ほど、カナダ人が約 100 人とのことで、40 ヶ国からの乗客とのことでした。

続く 2 日間は終日航海日が続きました。

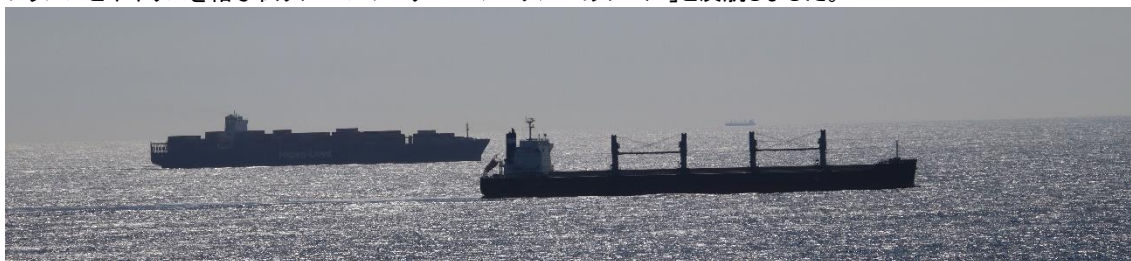
まず翌日の 24 日は、天気はよく、船は 17 ノットで西に向かいました。タンカー、コンテナ船、自動車運搬船などをゆっくりと追い越していきますが、「アンセム」が一番北側を走っているのも半逆光で、撮影した写真はいまひとつの結果となりました。



イギリス海峡幹線航路に入って APL のコンテナ船と反航しました。



フランスとイギリスを結ぶ仏クルーズフェリー「モン・サン・ミッシェル」と反航しました。



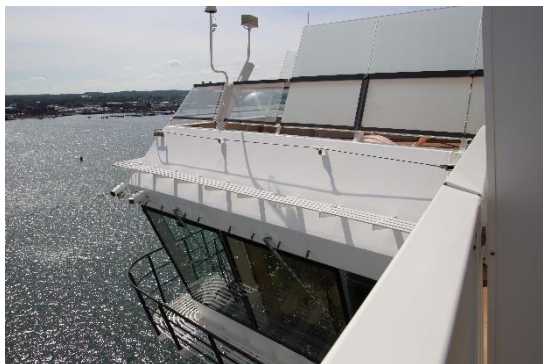
17 ノットで進む「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は、コンテナ船、ばら積み船をゆっくりと追い越しながら航海を続けました。

10 時半から Two 70 で開催されたクラウン・アンカー・ソサイエティの 25 周年に出席してみました。このソサイエティは、ロイヤル・カリビアン船の乗船回数に応じてランクが向上するシステムをとるポイント会員システムで、筆者はほぼ最上級のダイヤモンド会員で、飲み物の無料サービス、インターネットの 1 日無料、専用ラウンジの利用等の特典があります。クルーズディレクターの挨拶の中で、ダイヤモンド会員は 860 人余りが乗っているとのことでした。乗船している会員の数は 2311 人で、リピーターが約 50%ということがわかります。かつては新しい乗客が急増して、北米クルーズ業界のリピーター率は 20~30%程度と言われていましたが、現代クルーズも成熟期を迎えようとしてい

るのかもしれませんが。もちろん、会員制での顧客の囲い込みの効果が上がっているせいかもしれませんが。船長はクロアチア人で、ホテルマネジャー、クルーズディレクターも欧州の人ということで、欧州に張り付く「アンセム」では欧州人材が重用されています。それぞれの運航水域に合わせた運航体制がとられているということなのでしょう。サービス要員には、インド、インドネシア、フィリピンの人が多いようでしたが、各部門のリーダーには東欧系の船員が多いようでした。

25日の朝にはビスケー湾を通過して、欧州大陸の西端の北の岬をかわして、針路を南に変えました。スペイン、ポルトガルの沿岸を南下してリスボンへと航海を続けました。

サンデッキは、日光浴をする人で溢れていました。それにしても、みなさんよく飲み、よく食べます。筆者も暴飲暴食気味だったので、食事の量を意識して減らし、朝夕2回、15階のデッキのランニングコースを3周することにしました。1周すると550mとのこと。ランニングやウォーキングをしている人は、比較的痩せた人が多く、サンチェアで休む人は太った人が多いようです。



使用したキャビンからはブリッジのウイングと、その上のソラリウムの乗客用ウイングが見えます。



15階デッキのランニング・ウォーキング用トラックです。1周550mあります。



サンデッキは日光浴をする人で溢れていました。



サーフィンプール「フロー・ライダー」です。



室内プールです。



空中展望台「ノースター」です。

ポルトガルの沖を 16 ノットで南下しました。貨物船や軍艦などと並走して、ゆっくりと抜いていきました。

日没は 21 時でした。欧州の中では最西端に来たため、日の出はだいぶ遅くなり 6 時過ぎなので、昼間の時間は約 15 時間で、日本の感覚に近くなってきました。先週のノルウェークルーズでの最北端のオルデンでは、日出が 3 時、日没が 11 時半でしたから、昼間の時間は 20 時間余りありましたから、南に下がってだいぶ陽が短くなりました。

日の出前の 6 時に船は、リスボンの湾口にかかる橋の下を通過して新しいクルーズ客船岸壁に着岸。続いて「MSC オーケストラ」が入港して、向い合わせに接岸しました。

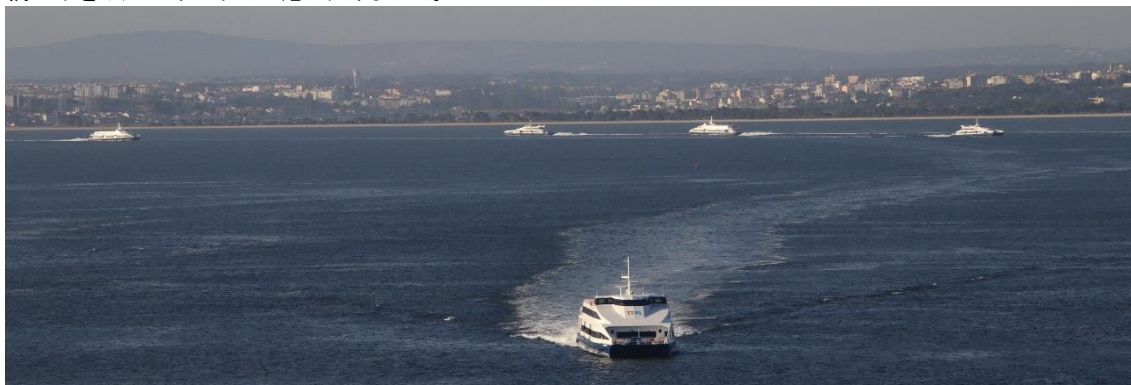
リスボンは大航海時代の船が出港した欧州大陸西端の港です。湾内には橋が 2 本ありますが、いまでもたくさんの高速船、在来型小型客船が市民の足として活躍しています。



輸送艦らしき船をゆっくりと追い越しました。



橋の下をくぐってリスボンの港に入りました。



港の中はたくさんの高速旅客船、在来型旅客船が走り回っていました。



MSC オーケストラが入港してきました。たくさんの乗客が下船して、乗船しており、リスボン発着のクルーズをしているようでした。



リスボン港に停泊する「アンセム・オブ・ザ・シーズ」と「MSC オーケストラ」



船の部屋のベランダからのリスボンの街並み。